

AN - 2001-372814 [39]

AP - JP19990293333 19991015

CPY - NONO-N

DC - B04 D21

FS - CPI

IC - A61K7/00 ; A61K7/48 ; A61K35/78 ; A61P17/00

MC - B04-A08C2 B04-A10 B12-M02B D08-B09A

M1 - [01] M423 M430 M431 M782 M905 N161 P943 Q254 Q262; RA00GT-K RA00GT-M

PA - (NONO-N) NONOGAWA SHOJI KK

PN - JP2001114664 A 20010424 DW200139 A61K7/48 006pp

PR - JP19990293333 19991015

XA - C2001-113832

XIC - A61K-007/00 ; A61K-007/48 ; A61K-035/78 ; A61P-017/00

AB - JP2001114664 NOVELTY - A cosmetics comprises loofah, hybrid cell extract of Gynostemma pentaphyllum and garden pea extract.

- USE - As skin cosmetics for preventing aging and wrinkles of skin.

- ADVANTAGE - The cosmetics effectively prevents aging and improves wrinkle formation.

- No supporting data given.

- (Dwg.0/0)

CN - RA00GT-K RA00GT-M

IW - COSMETIC PREVENT SKIN WRINKLE FORMATION COMPRISE HYBRID CELL EXTRACT GYNOSTEMMA PENTAPHYLLUM GARDEN PEA EXTRACT

IKW - COSMETIC PREVENT SKIN WRINKLE FORMATION COMPRISE HYBRID CELL EXTRACT GYNOSTEMMA PENTAPHYLLUM GARDEN PEA EXTRACT

NC - 001

OPD - 1999-10-15

ORD - 2001-04-24

PAW - (NONO-N) NONOGAWA SHOJI KK

TI - Cosmetics for preventing skin aging and wrinkle formation, comprises loofah, hybrid cell extract of Gynostemma pentaphyllum and garden pea extract

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2001-114664
(P2001-114664A)

(43)公開日 平成13年4月24日(2001.4.24)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームト ⁷ (参考)	
A 6 1 K	7/48	A 6 1 K	7/48	4 C 0 8 3
	7/00		7/00	K 4 C 0 8 8
// A 6 1 K	35/78		35/78	W
A 6 1 P	17/00	A 6 1 P	17/00	

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 6 頁)

(21)出願番号	特願平11-293333	(71)出願人	000249908 有限会社野々川商事 愛知県名古屋市中区丸の内3丁目5番24号
(22)出願日	平成11年10月15日(1999.10.15)	(72)発明者	森本 秀樹 愛知県名古屋市西区烏見町2-7 日本メ ナード化粧品株式会社総合研究所
		(72)発明者	加藤 美由紀 愛知県名古屋市西区烏見町2-7 日本メ ナード化粧品株式会社総合研究所
		(72)発明者	宮本 國寛 愛知県名古屋市西区烏見町2-7 日本メ ナード化粧品株式会社総合研究所
		最終頁に続く	

(54)【発明の名称】 化粧品

(57)【要約】

【目的】皮膚の老化防止効果のある化粧料を提供する

【構成】本発明はヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物と、エンドウ抽出物を含有することを特徴とする化粧料である。

【特許請求の範囲】

【請求項1】ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物とエンドウ抽出物を含有することを特徴とする化粧料。

【請求項2】ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物の配合量が0.001～5.0重量%かつエンドウ抽出物の配合量が0.005～10.0重量%であることを特徴とする請求項1の化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物とエンドウ抽出物を含有する老化防止効果に優れた化粧料を提供するものである。

【0002】

【従来の技術】皮膚の老化現象の一つとして、しわの発生や弾力性の低下があげられる。これは、真皮構成成分であるコラーゲンの減少が大きく影響することが知られている。そのため、コラーゲンを配合した化粧料や、コラーゲンの生成促進が期待される植物抽出物や動物抽出物等を配合した化粧料が開発されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、これらの成分を配合した化粧料では、充分なしわの予防・改善効果が得られない。このため優れたしわの予防・改善等の老化防止効果を有する化粧料の開発が望まれていた

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者等は、上記事項に鑑み、しわの予防・改善等の老化防止効果を有する化粧料の開発について鋭意研究を重ねた結果、セリンプロテアーゼ阻害作用を有するヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物（特開平11-124325）とエンドウ抽出物とを組み合わせると、しわの予防・改善等の老化防止効果が相乗的に亢進することを見出し、本発明を完成させるに至った。

【0005】すなわち本発明は、ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物とエンドウ抽出物を含有することを特徴とするしわの予防・改善等の老化防止効果を有する化粧料を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明の構成について詳述する。本発明に用いられるヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物は、特開平01-44297の方法により作出した雑種細胞のカルスをを用いて調製した。

【0007】ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物は、上記の雑種細胞を抽出溶媒と共に浸漬又は加熱した後、ろ過し、必要ならば濃縮して得られる。抽出溶媒としては、通常抽出に用いられる溶媒であれば任意に用いることができ、例えば、水、メタノールやエタノール等のアルコール類、1,3-ブチレングリコールやプロピレングリコール等の多価アルコール類、酢酸エチル、アセトン等を単独、あるいは組み合わせて用いることができ

る。好ましくは、水あるいは水溶性溶媒（水と任意の割合で混合可能な溶媒。例えばエタノール、1,3-ブチレングリコール等）のうち1種又は2種以上の溶媒を用いるのがよい。抽出物は、そのまま用いてもよいし、溶媒を一部又は全部留去して用いてもよい。

【0008】本発明に用いるヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物の配合量は、乾燥物として本発明化粧料の全量中、0.001～5.0重量%、好ましくは0.01～1.0重量%である。0.001重量%未満では老化防止効果の相乗効果が弱く、また、5.0重量%以上では効果の増強がなく不経済である。

【0009】本発明に用いられるもう一方の有効成分であるエンドウ抽出物は、エンドウ：Pisum sativum Linn (Leguminosae)の種子を抽出溶媒と共に浸漬又は加熱した後、ろ過し、必要ならば濃縮して得られる。抽出溶媒としては、ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物の場合と同様、通常抽出に用いられる溶媒であれば任意に用いることができる。エンドウ抽出物は、そのまま用いてもよいし、溶媒を一部又は全部留去して用いてもよい。

【0010】本発明に用いるエンドウ抽出物の配合量は、乾燥物として本発明化粧料の全量中、0.005～10.0重量%、好ましくは0.01～3.0重量%である。0.005重量%未満では老化防止効果の相乗効果が弱く、また、10.0重量%以上では効果の増強がなく不経済である。

【0011】本発明の化粧料は上記必須成分の他に、通常の化粧料、医薬部外品、医薬品等に用いられる各種成分、例えば油性成分、乳化剤、保湿剤、増粘剤、薬効成分、防腐剤、顔料、粉体、pH調節剤、紫外線吸収剤、抗酸化剤、香料等を適宜配合することができる。

【0012】具体的には油性成分としては、例えば流動パラフィン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス、スクワラン、ホホバ油、ミツロウ、カルナウバロウ、ラノリン、オリーブ油、ヤシ油、高級アルコール、脂肪酸、高級アルコールと脂肪酸のエステル、シリコン油等が挙げられる。乳化剤としては、例えばポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ソルビタン脂肪酸エステル、グリセリン脂肪酸エステル、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油等の非イオン界面活性剤が挙げられる。保湿剤としては、例えばグリセリン、ソルビトール、キシリトール、マルチトール、プロピレングリコール、ポリエチレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどが挙げられる。増粘剤としては、例えばカルボキシビニルポリマー、キサンタンガム、メチルセルロース、ポリビニルピロリドン、ゼラチン等が挙げられる。薬効成分としては、例えばビタミンC及びその誘導体、ビタミンE誘導体、アラセنتアエキス、コウジ酸、アルブチン、アラントイン、グリチルリチン酸誘導体、各種

植物抽出物等が挙げられる。

【0013】本発明の化粧料の剤型は、クリーム、乳液、化粧水、パック等の基礎化粧料、ファンデーション、リップスティック等のメイクアップ化粧料等目的に応じて任意に選択できる。

【0014】

【発明の効果】本発明の化粧料は、しわの予防・改善等の老化防止効果を有するものである。

【0015】

【実施例】つぎに実施例により本発明をさらに詳細に説明する。本発明はこれにより限定されるものではない。配合量は重量％である。

【0016】実施例-1. エラスターゼ活性阻害試験
皮膚の老化現象の1つにはエラスターゼにより皮膚中のエラスチン組織の分解・変質（異化作用）が進行し、弾力性が失われ皮膚の老化として現れる。そのため、エラスチン分解酵素であるエラスターゼの活性阻害効果を測定し、皮膚老化防止効果の指標とした。ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物は、ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物（阻害率％）

種細胞100gに300mLの精製水を加えて、100℃で2時間抽出した後、ろ過し、乾固させた粉末を使用した。一方エンドウ抽出物は、エンドウ種子100gに1000mLの精製水を加えて、100℃で3時間抽出した後、ろ過し、乾固させた粉末を使用した。カゼインを基質として含むポリアクリルアミドゲルを作製し、50U/mLのエラスターゼ（シグマ社製）を添加して電気泳動を行った。その後、このゲルを30mM Tris-HCl (pH7.5) 緩衝液中で37℃で20時間酵素基質反応を行った。この際、ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物及びエンドウ抽出物を単独または等量混合して緩衝液中に添加した。反応終了後、ゲルをタンパク染色すると、エラスターゼ活性の強いバンドほど染色されにくくなる。このバンドをデンストメーターにて定量し、抽出物無添加時の活性に対する添加時の活性の値から、活性阻害率を求めた。その結果を表1に示す。

【0017】

【表1】

添加濃度 (%)	ヘチマとアマチャヅルの 雑種細胞抽出物	エンドウ抽出物	ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞 抽出物とエンドウ抽出物の混合物
0.01	33.1	25.4	85.6
0.02	46.3	39.7	95.2

【0018】表1からわかるように、ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物とエンドウ抽出物を併用することにより、優れたエラスターゼ活性阻害作用を有することがわかる。

【0019】実施例-2. 実使用試験

本発明の効果を、しわ・たるみに対する改善および肌の柔軟性の向上から評価した。試料としては、表2に示すように本発明品としてヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物とエンドウ抽出物を配合したローション、比較品としてヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物あるいはエンドウ抽出物のいずれか一方を除いたローションを用いた。

【0020】顔のしわ・たるみに悩む人を被験者として

30名選抜し、3グループに分け、被験者には本発明品もしくは比較品を4週間毎日連用させて、使用後にしわ・たるみ・肌の柔軟性についてアンケート調査を行い老化防止効果を下記の基準で5段階評価を行った。表2にはその平均点を示した。

5：著しく効果がある。

4：かなり効果がある。

3：やや効果がある。

2：ほとんど効果なし。

1：効果なし。

【0021】

【表2】

	本発明品	比較品 1	比較品 2
ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞 (50%エタノール抽出物乾燥エキス)	0. 1	0. 1	—
エンドウ種子(50%エタノール抽出物乾燥エキス)	0. 1	—	0. 1
エタノール	5. 0	5. 0	5. 0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(40E.O.)	0. 1	0. 1	0. 1
パラオキシ安息香酸メチル	0. 1	0. 1	0. 1
1,3-ブチレングリコール	3. 0	3. 0	3. 0
精製水	残 余	残 余	残 余
しわの改善効果	4. 9	2. 2	1. 2
たるみの改善効果	4. 8	2. 6	1. 0
肌の柔軟性の向上	4. 8	2. 4	1. 3

【0022】表2から本発明のヘチマとアマチャヅルの雑種細胞抽出物とエンドウ抽出物を含有するローションは、優れたしわの予防・改善等の老化防止効果を有して

いることが認められた。

【0023】

実施例-3 乳液	配合量
(A) スクワラン	5. 0
オリーブ油	5. 0
ホホバ油	5. 0
セタノール	1. 5
モノステアリン酸グリセリン	2. 0
ポリオキシエチレンソルビタンモノオレート(20E.O.)	2. 0
ポリオキシエチレンセチルエーテル	3. 0
香料	0. 1
(B) 1,3-ブチレングリコール	5. 0
グリセリン	2. 0
ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞(水抽出エキス)	0. 5
エンドウ種子(水抽出エキス)	3. 0
パラオキシ安息香酸メチル	0. 2
精製水	残 余

(製造方法) (A) の油相部と (B) の水相部を別々に加熱溶解する。(A) に (B) を添加して乳化し、冷却

して乳液を得た。

【0024】

実施例-4 クリーム	配合量
------------	-----

(A) スクワラン	5.5
オリーブ油	3.0
ステアリン酸	2.0
ミツロウ	2.0
ミリスチン酸オクチルドデシル	3.5
ベヘニルアルコール	1.5
モノステアリン酸グリセリン	2.5
ポリオキシエチレンステリルエーテル(20E.O.)	3.0
香料	0.2
(B) 1,3-ブチレングリコール	8.0
ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞(水抽出エキス)	1.0
エンドウ種子(水抽出エキス)	2.0
パラオキシ安息香酸メチル	0.2
精製水	残 余

(製造方法) (A) の油相部と (B) の水相部を別々に してクリームを得た。
加熱溶解する。(A) に (B) を添加して乳化し、冷却 【0025】

実施例-5	バック	配合量
ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞(抽出物乾燥エキス)		0.05
エンドウ種子(抽出物乾燥エキス)		0.05
ポリビニルアルコール		12.0
エタノール		5.0
パラオキシ安息香酸メチル		0.2
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(20E.O.)		0.5
クエン酸		0.1
クエン酸ナトリウム		0.3
香料		適 量
精製水		残 余

(製造方法) 全成分を均一に溶解し、バックを得た。 【0026】

実施例-6	乳化ファンデーション	配合量
(A) ステアリン酸		2.4
ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート(20E.O.)		1.0
ポリオキシエチレンセチルエーテル(20E.O.)		2.0
セタノール		1.0
ラノリン		2.0
流動パラフィン		3.0
ミリスチン酸イソプロピル		6.0
パラオキシ安息香酸ブチル		0.1
香料		適 量
(B) カルボキシメチルセルロースナトリウム		0.1
ベントナイト		0.5
プロピレングリコール		4.0
パラオキシ安息香酸メチル		0.2
トリエタノールアミン		1.0
二酸化チタン		8.0
タルク		4.0
着色顔料		5.0
ヘチマとアマチャヅルの雑種細胞		
(1 3-抽出物)		1.0
エンドウ種子(1 3-抽出物)		3.0
精製水		残 余

(製造方法) B部の二酸化チタン、タルク、着色顔料をよく混合し粉碎機を用いて粉碎する。これにのこりのB部を混合しホモミキサーで分散させる。(A)と(B)を別々に加熱し、(A)に(B)を添加して乳化し、冷

却してファンデーションを得た。

【0027】実施例-3~6で調製した本発明品についても、実使用試験においてしわの予防・改善等の老化防止効果に優れたものであった。

フロントページの続き

(72)発明者 中田 悟
愛知県名古屋市西区鳥見町2-7 日本メ
ナード化粧品株式会社総合研究所

Fターム(参考) 4C083 AA082 AA111 AA112 AA122
AB242 AB432 AB442 AC022
AC072 AC102 AC122 AC182
AC242 AC302 AC352 AC392
AC432 AC442 AC482 AC542
AD112 AD272 AD512 CC01
CC05 CC07 EE12
4C088 AB19 AB20 AB59 AC04 AC16
BA09 CA05 CA06 MA07 MA22
MA23 MA63 ZA89 ZC20